

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 23 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2012

課題番号：21520375

研究課題名（和文） 台湾現代詩のモダニズムとポストモダニズム

研究課題名（英文） Modernism and Postmodernism in Contemporary Taiwan Poetry

研究代表者

三木 直大 (MIKI NAOTAKE)

広島大学・大学院総合科学研究科・教授

研究者番号：10190612

研究成果の概要（和文）：

連携研究者と協力して台湾現代詩研究会を組織し、以下のふたつを大きな柱として共同研究をすすめた。(1)台湾現代詩の研究と翻訳紹介については、研究代表者を編集委員として、台湾現代詩人シリーズ 5 冊の翻訳詩集を詳細な解説と詩人年表を付して出版した。(2)台湾から詩人・研究者を招聘し、日本の詩人にも参加を依頼しての研究会を 5 回開催し、そこでの成果を公表するとともに、今後の台湾現代詩研究の基礎を提供した。

研究成果の概要（英文）：

I organized the "Taiwan Modern Poetry Study Group", with the help of many collaborators, and our activities resulted in the following two works. (1)The publication of a series of five books: "Modern Taiwan Poets Series", each volume having a chronology of poets and an essay about the research results. (2)I held five workshops, in which poets and scholars in Japan and Taiwan collaborated in the study of the contemporary Taiwan poetry. Through these two works, we have been enabled to provide in Japan the basis for the research into modern Taiwan poetry.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：中国語圏の現代文学・文化

科研費の分科・細目：各国文学・文学論

キーワード：台湾文学、現代詩、比較文学、地域研究

1. 研究開始当初の背景

台湾現代詩の研究は、日本ではこれまでほとんど進められていなかったこともあり、平成 16 年度から平成 18 年度にかけて交付を受けることのできた科学研究費補助金基盤研究（C）『光復』期から笠詩社設立にいたる

台湾現代詩の総合的研究」により、第一段階として、台湾の「光復」期から 1964 年の「笠詩社」設立を経て 1980 年前後に至るまでの時期を中心に研究を行った。

「笠詩社」とは 1964 年に、陳千武・林亨泰ら台湾戦後詩の第一世代の詩人たちによって設立された台湾本省人による詩社であ

り、詩誌『笠』（隔月刊）を刊行、現在に至っている。今回は、さらに1987年の戒厳令解除前後から今日に至る時期に研究を進めることで、継続して日本における台湾現代詩研究の基礎を作る必要性を考えた。

また、研究全体に一貫する問題意識として、台湾現代詩における「モダニズムとポストモダニズム」をキーワードとし、その多重性や相克・葛藤など、台湾のポストコロニアル社会における文学的課題の多様性に焦点を絞り、研究を進めることを課題とした。

さらに、台湾現代詩を対象とした、そうした諸問題の検討によって、台湾・日本・香港・中国の現代詩の越境の問題を中心に、近現代東アジアの文化構造全体を総合的に考える手がかりを探求しようと計画した。

2. 研究の目的

主に1987年の戒厳令解除前後から今日に至る時期の台湾現代詩研究をすすめることで、日本における台湾現代詩研究の基礎を作っていくことを目的とした。

研究全体に一貫する問題意識として、台湾現代詩における「モダニズムとポストモダニズム」をキーワードとして設定し、その多重性や相克・葛藤など、台湾のポストコロニアル社会における文学的課題の多様性を把握しようとした。

あわせて、台湾から詩人・研究者を招き、日本の詩人や研究者などと協力して、ワークショップを開催し、上記の課題を議論することを通して、台湾・日本・香港・中国の現代詩の越境の問題を中心に、現代東アジアの文化構造を総合的に考える手がかりを探求することに重点を置いた。

3. 研究の方法

台湾本省人の詩人グループ「笠詩社」設立から現在に至る台湾現代詩の流れを、1987年の戒厳令解除前後をひとつの区切りとして、「笠詩社」だけでなく「創世紀詩社」などに代表される外省人系の詩人グループの活動、戦後生まれの第二世代、第三世代詩人たちの活動等と相互に対照させながら、詩集・作品の検討、詩人グループの動き、読者のあり方や詩雑誌や詩集の流通の問題など多様な側面から、実証的な研究を進めた。

また、詩人へのインタビュー、研究者との交流などを通して検討を深めた。

具体的には以下の課題を行っている。

- ①研究の基礎としての作品の日本語訳。
- ②詩人論・作品論的アプローチ。
- ③詩社・詩人グループの盛衰、詩雑誌の刊行（出版形態やメディアの問題）と読者のあり方についてなどの検討。

④台湾におけるエスニックグループである「族群」意識と文学表現に関わる問題の研究。このテーマはポストコロニアル状況下における台湾の現代文化全体の問題と通底している。

⑤アメリカなど海外に移住した台湾詩人のナショナリティに関する意識とディアスポラ意識の表現の検討。さらに北島や楊煉など中華人民共和国出身の詩人のそれとの比較検討。

⑥「先住民文学」のなかの中国語現代詩の検討。

⑦台湾現代詩と昭和現代詩、「荒地派」や「列島」をはじめとする日本戦後詩との影響関係。

⑧詩的表現の問題を中心とした、台湾現代詩と香港現代詩・シンガポールやマレーシアなど東南アジア中国語詩や中華人民共和国現代詩との比較研究。

4. 研究成果

池上貞子氏（跡見学園女子大学）佐藤普美子氏（駒沢大学）松浦恆雄（大阪市立大学）を連携研究者とし、台湾現代詩研究会を組織して、(1)台湾現代詩の研究と翻訳紹介(2)台湾から詩人・研究者を招聘し、日本の詩人にも参加を依頼しての研究会開催及び公開形式の台湾現代詩ワークショップ⁹開催を大きな柱として研究をすすめた。

(1)については、当初より計画の翻訳詩集（台湾現代詩人シリーズ第Ⅱ期、思潮社）を、研究代表者を編集委員として刊行した。『新しい世界—鴻鴻詩集』（三木直大編訳）『あなたに告げた—陳育虹詩集』（佐藤普美子編訳）『禅の味—洛夫詩集』（松浦恆雄編訳）『ギリシャ神弦曲—杜国清詩集』（池上貞子編訳）『無明の涙—陳克華詩集』（三木直大編訳）の5冊である。各詩人は台湾現代詩史において面目を記す詩人たちであり、各詩集には研究成果の一部である詳細な解説・年譜等も付している。

この第Ⅱ期は、林水福・三木直大を編集委員とした、第Ⅰ期計8冊に続くものであり、日本への台湾現代詩紹介を、より若い世代の詩人たちを中心とした5冊を加えることで、充実させることができた。こうした詩人毎の日本語訳詩集出版のシリーズ化は、台湾だけにとどまらず中国語圏の現代詩人紹介の作業としてのはじめてのものである。

(2)第1回は6月に台湾から向陽氏と陳義芝氏、日本から杉本真維子氏の協力をえて、「台湾現代詩と詩の伝統をめぐって」と題して開催し、台湾現代詩における「伝統」の問題を議論した（キャンパスイノベーションセンター東京）。

ここでは台湾中国語現代詩の戦後における再出発において、「詩の伝統」をどのよう

にとらえるかをめぐって、様々な詩論が生み出され、作品が発表されてきた経緯（台湾中国語現代詩史）を、実作者の発言を中心に考えていくこととなった。

第2回は10月に台湾から焦桐氏と席慕蓉氏、日本から辻原登氏、野村喜和夫氏、蜂飼耳氏の協力をえて、「台湾現代詩とアイデンティティの表象をめぐって」と題して開催し、台湾アイデンティティの表象をめぐる多様な詩的実験をめぐって議論した（跡見女子学園大学）。

ここでは詩作品に表象された台湾の「族群」（エスニックグループ）イメージをめぐって考えていくこととなった。席慕蓉氏はモンゴル人の詩人であり、台湾における族群ということでは外省人であるが、同じ外省人詩人であっても漢民族の詩人とは違った立ち位置にある。また、女性詩人としてジェンダーの視点からみた現代詩の問題についても討論することができた。

この計2回のワークショップの概要については「台湾現代詩の世界とその拡がり」と題し『日本台湾学会ニュースレター第19号』（2010.11）などでも報告した。また、台湾現代詩の紹介として、研究代表者・連携研究者は『現代詩手帖』（思潮社）2011年3月号の特集「越境するアジア-東アジアの詩は、いま」に台湾編の翻訳担当者として参加している。

第3回は2011年10月に「新しい詩の世界を求めて」をテーマとし、台湾から鴻鴻氏・陳育虹氏・許悔之氏、日本から野村喜和夫氏・蜂飼耳氏・杉本真維子氏の協力をえて、台湾現代詩の現在とその表現をめぐって議論した（CIC 東京）。『現代詩手帖』2012年2月号の特集「中国語圏の“新しい詩人”たち」などで、議論の詳細な内容その他の研究成果を発表している。

ここでは時代を現在一同時代に設定し、台湾現代詩における新しい表現の模索を考えた。鴻鴻氏は詩人であるだけでなく、映画人、演劇人としての活動も活発に行っており、幅広く台湾文化の現在について議論することができた。

第4回は2012年4月に「人間、このクィアなるもの」をテーマとし、台湾から陳克華氏、日本から高橋睦郎氏の協力をえて、現代詩におけるセクシュアル・マイノリティの表象をめぐって議論した。『現代詩手帖』2012年11月号の「人間、このクィアなるもの（特集・詩にとってセクシュアリティとは何か）」（高橋睦郎・陳克華対談・三木司会）にその内容が掲載されている。

第5回は2012年9月に「台湾・日本・戦後詩」をテーマに、台湾から洛夫氏（バンクーバー在住）、日本から辻井喬氏の協力をえて開催し、植民地からの解放と戦後のありかた、冷戦と近代などの諸問題の、現代詩にお

ける表象をめぐって議論した（CIC 東京）。『現代詩手帖』2013年1月号の「戦争・近代・伝統-日本/台湾、詩の半世紀」（洛夫・辻井喬対談、三木司会）などで、議論の詳細な内容その他の研究成果を発表している

また、以上のワークショップについては、詳細な報告書を毎回作成し、合計5冊を刊行している。

その他の研究会活動としては、台湾だけにとどまらず、より広く中国語圏における現代文化の諸相を、当該科研課題との関連のもとに議論する場として、シンポジウムや研究会等も開催している。主なものとしては、2012年2月に、「台湾文化研究の動向」と題してシンポジウムを開催し、山口守氏（日本大学文理学部）の協力をえて、戦後アジアの冷戦構造下にある台湾文化の様相を議論している（広島大学総合科学研究科）。

また、2013年2月には「アジアの現代文化と越境をめぐって」と題してシンポジウムを開催し、三澤真美恵氏（日本大学文理学部）と山口守氏の協力をえて、「越境」というテーマのもとに、ディアスポラの問題や中国語文学の様相を議論した（同）。

こうした研究活動の積み重ねによって、台湾現代詩研究を、現代詩という枠内にとどまらない、より広い視野のもとで、様々な現代文化の様相と比較対照しながら、展開していく作業をおこなうことができた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計8件）

1. 三木直大、陳克華詩のクィア策略、現代詩手帖、査読無、2012年11月号、2012、pp71-76
2. 三木直大、台湾現代詩の新しい拡がり—台湾現代詩ワークショップについて、現代詩手帖、査読無、2012年2月号、査読無、2012、pp138-141
3. 三木直大、林亨泰「現代派」詩的郷土性、台湾現当代作家研究資料彙編 22 林亨泰、国立台湾文学館、査読有、2012、pp247-258
4. 三木直大、人称翻訳—以陳克華作品的中文翻訳日文作業爲例、騎鯨少年的詠唱詩（台湾・中正大学）、査読無、2012、pp22-32
5. 三木直大、台湾現代詩の成立と展開—台湾現代派運動再考、台湾研究的國際化與深化、天理台湾学会、査読有、2010、ppF7-1-18
6. 三木直大、中国現代詩研究の現在、アジア社会文化研究、査読無、第12号、2010、pp119-122
7. 三木直大、台湾現代詩の世界とその拡がり、日本台湾学会ニュースレター、査読無、19号、2010
8. 三木直大、モダニズムと郷土—林亨泰と

二つの植民地時代、植民地時代東アジアの言語・文学・宗教（韓国・仁荷大学）、仁荷大学、pp323-362、査読無、2009

〔学会発表〕（計 4 件）

1. 三木直大、人稱翻譯—以陳克華作品的中文翻譯日作業為例、陳克華—跨海領域學術研討會、2012/3/9、國立中正大學、台湾
2. 三木直大、台湾現代派與 1930 年代東京、第 8 屆東亞現代中文文学國際學術研討會、2010/11/4、慶応義塾大学
3. 三木直大、台湾現代詩の成立と展開—台湾現代派再考、天理台湾学会第 20 屆國際學術記念大会、2010/9/11、中国文化大学、台湾
4. 三木直大、モダニズムと郷土—林亨泰と二つの植民地時代、シンポジウム植民地時代東アジアの言語・文学・宗教、2009/12/3、仁荷大学、韓国

〔図書〕（計 5 件）

1. 三木直大（編訳）、思潮社、無明の涙—陳克華詩集、2011、214
2. 池上貞子（編訳）、思潮社、ギリシャ神曲—杜国清詩集、2011、207
3. 松浦恆雄（編訳）、思潮社、禅の味—洛夫詩集、2011、226
4. 佐藤普美子（編訳）、思潮社、あなたに告げた—陳育虹詩集、2011、189
5. 三木直大（編訳）、思潮社、新しい世界—鴻鴻詩集、2011、200

〔その他〕（計 13 件）

（1）報告書

1. 台湾現代詩研究会、台湾現代詩と詩の伝統をめぐって（シリーズ台湾現代詩ワークショップ第 1 回）、2010・6、48
2. 台湾現代詩研究会、台湾現代詩とアイデンティティの表象をめぐって、（シリーズ台湾現代詩ワークショップ第 2 回）、2010・10、56
3. 台湾現代詩研究会、新しい詩の世界を求めて（シリーズ台湾現代詩ワークショップ第 3 回）、2011・10、54
4. 台湾現代詩研究会、人間、このクィアなるもの（シリーズ台湾現代詩ワークショップ第 4 回）、2012・4、26
5. 台湾現代詩研究会、台湾・日本・戦後詩（シリーズ台湾現代詩ワークショップ第 5 回）、2012・9、16

（2）翻訳

1. 佐藤普美子、及川茜、謝貞恵、三木直大共訳台湾新鋭詩人 5 人集、現代詩手帖、2011 年 3 月号、2011、pp64-83
2. 三木直大訳、麒麟の出現—新十年の台湾現代詩（楊佳嫻）、現代詩手帖、2011 年 3 月号、

2011、pp84-90

3. 池上貞子訳、台湾現代詩の文化的アイデンティティ（焦桐）、現代詩手帖、2011 年 3 月号、2011、pp92-99
4. 池上貞子、佐藤普美子、三木直大共訳、作品—応答 3. 11、現代詩手帖、2011 年 9 月号、2011、pp128-137
5. 佐藤普美子、三木直大共訳、中国語圏の新しい詩人たち 詩論、現代詩手帖、2012 年 2 月号、2012、pp114-121

（3）対話

1. 陳育虹、許悔之、鴻鴻、野村喜和夫、蜂飼耳（台湾現代詩研究会翻訳・通訳）、新しい詩の世界を求めて—台湾現代詩と出会う、現代詩手帖、2012 年 2 月号、2012、pp99-113
2. 高橋陸郎、陳克華（台湾現代詩研究会翻訳・通訳）、人間 このクィアなるもの、現代詩手帖、2012 年 11 月、2012、pp78-89
3. 辻井喬、洛夫（台湾現代詩研究会翻訳・通訳）、戦争・近代・伝統—日本/台湾 詩の半世紀、現代詩手帖、2013 年 1 月、2013、pp138-148

6. 研究組織

（1）研究代表者

三木 直大 (MIKI NAOTAKE)

広島大学・大学院総合科学研究科・教授
研究者番号：10190612

（2）研究分担者

なし

（3）連携研究者

池上 貞子 (IKEGAMI SADAKO)

跡見学園女子大学・文学部・教授
研究者番号：10168114

佐藤 普美子 (SATO HUMIKO)

駒澤大学・総合教育研究部・教授
研究者番号：60119427

松浦 恆雄 (MATUURA TUNEO)

大阪市立大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：20173792